

障害者の就労支援「ぶろぼの」

「ぶろぼの」は、奈良県内で、障害者の就労支援を柱とした事業を展開する福祉事業体である。2006年9月に発足した「特定非営利活動法人ぶろぼの」と、2013年に設立された「社会福祉法人ぶろぼの」により、「奈良の福祉グループ ぶろぼの」を構成し、奈良市新大宮に事務所と事業所、生駒、高の原、大和八木、榛原に事業所をおき、就労移行支援、就労継続支援（A型、B型）、相談支援、地域活動支援センター、グループホームなどの障害者総合支援法に基づくサービスを実施し、奈良という地域の特性や魅力を活かしながら、障害がある人の働く場をつくる事業を展開している。

その一つが「福祉3R事業」という中古パソコン及びパソコン部品再販事業である。この事業は、中古パソコンの有効活用と資源の循環及び地域ネットワークづくりを目指したもので、ちなみに「3R」とは、Recycle（資源の再利用）、Reuse（製品の再利用）、Relationship（人と人との結びつき）の3つのRのことを指す。パソコンは企業、学校、行政などから、買い替えなどのために不要となった中古パソコンを回収、部品まで分解してチェックし、不具合のある個所は徹底的に改善を施し、動作確認やクリーニングを経て仕上げ再生させる。再生されたパソコンは、社会福祉施設やNPOなどに寄贈あるいは無償レンタルされている。不要になった資源を再生させる業務に従事することで障害者自身の仕事に対する意識が向上、また同事業の技術支援などを行う協力企業、再生されたパソコンが提供される福祉施設、そしてぶろぼのとの、情報インフラ整備を通じたRelationshipが構築されている。

「Pac」の記帳代行事業

ぶろぼのがつくる障害者の働く場で、もう一つ特徴的なのが「Pac」という事業である。「Pac」とはProbono Account Center（ぶろぼのアカウントセンター）の略で、ここでは、ぶろぼのが契約している会計事務所から帳票などの会計書類を預かり、専用ソフトで金額や適用を入力する記帳代行事業を行っている。2010年にぶろぼの職員がある会合で税理士から「近年は記帳を海外に外注している」との話を聞いたことがきっかけとなり、この業務を障害者の仕事として行うことができないかと検討が開始された。単に記帳といっても、簿記の知識や正確さなどの専門性が求められる仕事であることはいうまでもない。ぶろぼのの利用者は、障害種別では精神障害や発達障害がある者が多く、4年制大学や専門学校卒業生、就労経験がある者も多くて、仕事を遂行する基礎的な能力を有していると考えられるものの、ぶろぼの自体に会計業務専門のノウハウがあるわけではなく、そもそもこうした事業が社会から受け入れられるのかなど、この事業の立ち上げに関しては多くの課題が立ちだかっていた。税理士の指導を受け、会計業務の一つひとつを検証しながら、障害がある者でもトレーニングと職場環境の整備を行えば可能だという結論に達し、2011年、障害者2名と職員1名により「Pac」がスタートした。会計事務所向け見学会の開催や着実な業務実績を重ね、現在では15の会計事務所との契約の下、10名の働く障害者、月25,000件の仕訳入力を行っているという。こうした事業が可能となっているのも、

ぶろぼの自体が社会人マナー訓練とIT技能の習得に力を入れた就労訓練を行っていること、これを基盤に「Pac」でも徹底的なPCや会計のトレーニングを税理士等の専門家の指導の下で行っていること、障害者でも数値入力に得意な者が多く、厳しいトレーニングを受けて技術を身につけたこと、預かった会計書類は当然のことながら在宅などの外部業者や事務所外への持ち出しは厳禁というルールに則って情報の安全性が確保され、「顔がみえる」人たちによる作業であることなどが背景として挙げることができるだろう。

「ぶろぼの」のクラウドファンディング

この事業による雇用を増やすこと、そのための資金確保が課題である。具体的には作業を行うパソコンの購入だが、ぶろぼのでは、パソコン購入に必要な費用をクラウドファンディング（CF）を活用して調達しようと検討を開始した。折しもCFサイトである「FAAVO」が奈良で立ち上がることとなっていて、この「FAAVO奈良」による案件第1号を目指した。「FAAVO」は購入型CFの一つだが、ご当地のプロジェクトを「エリアオーナー」となる当該地域に根ざした団体等と連携して進めていく「地域密着型」を特徴としている。エリアオーナーは地域ごとの「FAAVO」の運営者で、CFの普及促進、プレイヤー（プロジェクト実施主体、資金募集主体）に対する助言やサポートなどを行うが、奈良地域では奈良信用金庫がエリアオーナーとなり、「FAAVO奈良」が2015年5月に立ち上がった。奈良も含めて2016年4月現在、全国54地域で「FAAVO」が立ち上がっている。必ずしも都道府県ごとではなく、例えば東京では、東京23区、東京武蔵野などの4つの「FAAVO」がある。

2015年5月から、奈良信金とぶろぼのが協議を開始、募期間や金額、リワード（資金提供者に対する見返り）の設定などが協議・決定され、「会社の記帳代行をする仕事で、障がい者の働く場所を広げたい」をテーマに、「FAAVO奈良」による資金募集案件第1号のプロジェクトとして同年7月8日から8月28日にかけて行われた。ぶろぼのが手掛ける、天平文様と万葉和歌を取り入れた「なら語り大人の名刺」、大和茶セット、有機栽培茶、「記帳代行」お試しチケットなどがリワードとして設定された。パソコン購入費用200,000円を目標金額としたところ、54名の支援者から401,000円（達成率200%）が提供されて終了した。ちなみに「FAAVO」は、設定された募期間内で金額が目標額に達しなかった場合、資金は支援者に返金されプロジェクトを実現できないという「All or Nothing型」を採用している。目標額を達成しプロジェクトが「成立」したことで、この「記帳代行事業」の存在が社会に認められ、障害者の就労・雇用に関する課題の周知につながったとみることでよい。ぶろぼの担当者も「CFによって資金を調達できたことだけでなく、障害者の仕事として記帳代行という事業があることを知ってもらうことができこれが共感につながった」と語る。

【主な引用資料】

- ・「奈良の福祉グループ ぶろぼの」各種パンフレット
 - ・FAAVOサイト (<https://faavo.jp>)
- ※本稿執筆にあたっては、ぶろぼの事務局の田中伸一氏に多大なご協力をいただいた。紙面を通じて御礼を申し上げたい。